さかなかな

2026 秋

Vol.131



特　集

海のゆりかごを未来へ
～アマモ場造成プロジェクト～

- 水族館トピックス
- 水族館アカデミー ダーウィンの箱
- ほねほね探検隊
- ボランティア便り
  私の館内おすすめポイント
- 水族館スクールレポート
- アクアリウム・ダイアリー

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

名古屋港水族館

特集

海のゆりかごを未来へ
～アマモ場造成プロジェクト～

飼育展示第一課　尾田 愛実



図1：アマモの隙間から姿を現したメバルの仲間

海の中には、**「海のゆりかご」**と呼ばれる多くの生き物の命を支える大切な場所があります。そのひとつが海草の仲間であるアマモが群生する「アマモ場」です。アマモ場は魚やエビ、カニなど多くの生きものが産卵場や隠れ家、餌場として利用しています（図1）。

アマモは、ワカメやコンブなどの海藻とは違い、海の中で花を咲かせて種子をつくる「海草」の仲間で、海底に根を張り、地中の養分を吸収して生育します（図2）。地球温暖化が注目され始めてからは、光合成によって大気中の二酸化炭素（CO_2）を吸収・固定する「ブルーカーボン生態系」としても注目されています。

しかし、近年、埋め立てや護岸整備、水質の悪化などにより、日本各地でアマモ場は減少しています。これに歯止めをかけようと、各地でアマモ場を守り育てるための試みが行われています。名古屋港水族館は、株式会社フジトランスコーポレーションと東亜建設工業株式会社が共同で進めている愛知県常滑市沖でのアマモ場造成プロジェクトに、昨年より協力を始めました。このプロジェクトは、アマモ場を増やし、豊かな伊勢湾を未来につないでいくとともに、Jブルークレジット®（アマモ場や干潟などが吸収した二酸化炭素の量を「見える化」し、価値として認証する仕組み）の創出や、さまざまな生きものが暮らせる環境を守ることを目指しています。名古屋港水族館の担当はアマモの種子の確保や保管です。ここで本プロジェクトの取り組みの様子を紹介します。

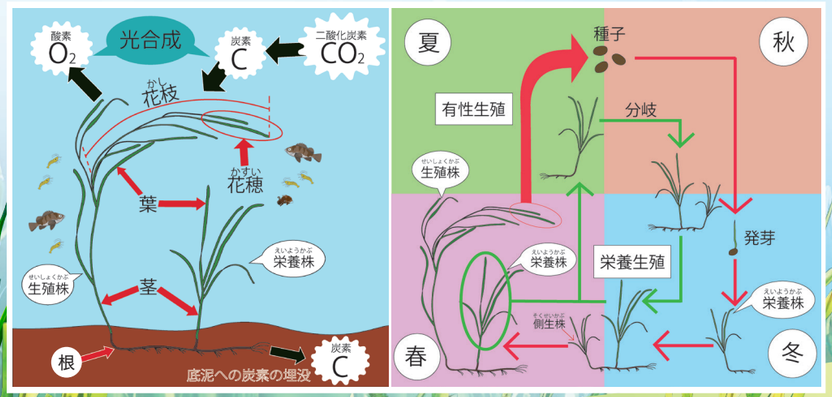


図2：アマモの体のつくりと生活史。アマモは陸上植物と同様に体の構造が根・茎・葉に分かれる。花を咲かせて種子をつくる「生殖株」と、地下茎を伸ばして増える「栄養株」がある。

春

春。アマモ場に潜水し、花穂（かすい）をつけた花枝（図3）を採集します。

採集した花枝は本数を確認し（図4）、種子が作られる部分である「花穂（かすい）」が海水に浸かる状態で追熟（ついじゅく）します（図5）。この間に花穂はゆっくりと分解され、種子を自然に取り出すことができます。ほとんどは海中に吊るして追熟しますが、一部を水族館で預かり、水槽内で追熟しています。



図3：アマモの花穂（かすい）。しっかりと育った種子が並ぶ。



図4：採集した花枝の本数を現場で確認。追熟の準備へ



図5：採集したアマモの花枝をネット状の袋に入れ、海中に吊るして追熟させる。

夏

夏。種子は水族館に集められ、一粒ずつ取り分けて数えます。地道な作業です（図6～7）。

アマモの種子は、低温を一定期間経験することで休眠が解除され、発芽しやすくなることが知られています。そのため、種子を海に戻すまでは水族館の冷蔵庫で保管します。



図6：手分けして、葉の残骸や不純物を取り除く。



図7：取り分けたアマモの種子。長さは約 3mm。

冬

冬。発芽や定着に適した時期を見計らい、種子を採取した周辺のアマモが生えていない海域に種子を戻します（図8）。そして種子の発芽や生育状況、アマモ場の広がりなどを定期的に調査します（図9）。

これらの調査結果は、効率的なアマモ場造成を進めるための大切な資料となり、翌年の取り組みに向けた足がかりとなります。

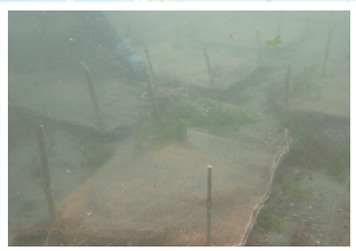


図8：アマモの種子を入れた麻袋を 海底に設置した様子。

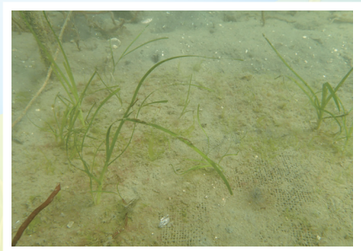


図9：設置した麻袋から発芽し、生育しているアマモ。

当館が協力しているアマモ場造成事業について紹介しました。現在、海を守る・豊かにする取り組みは様々な場所や機関で行われています。こうした一つ一つの活動が未来の豊かな海を支えています。

当館もその一員として、これからも海の保全活動に取り組んでいきます。

写真提供
本プロジェクトの協力会社２社より提供
日本工営都市空間株式会社：図５～９、
株式会社アルタパディマリン：図３

水族館トピックス 2026 秋

Aquarium Topics 01

サン・ガブリエル川のアオウミガメ



川には常に200頭近くのウミガメが暮らしているようです。
調査のためにアンテナを装着したウミガメも見ることができました。

アカウミガメの回遊経路調査「STRETCH」のため、日本から船でパナマへ渡り、帰国する途中、ロサンゼルスの水族館「Aquarium of the Pacific」を視察しました。

水族館への訪問をSTRETCHの海外メンバーに伝えると、「近くのサン・ガブリエル川にアオウミガメが生息している場所があるからぜひ訪れてほしい」と勧められました。ウミガメが川にいるのかぁ、という程度の印象だったものの、調べてみると、満潮時にウミガメが見やすい、そして訪問日は朝が満潮で水族館訪問前にタイミングが良い、ということで、川のアオウミガメを観察することにしました。

幸運にも水族館の方が案内してくださり現場へたどり着くと、一目見て数頭のアオウミガメが浮いているのがわかりました。

このウミガメたちは川の藻を食べに来ているとのこと、サメのような大きな捕食者もいないため安心して生活できる場所であることを教えていただきました。

世界的にも淡水域でアオウミガメが見られる場所は珍しく、間近で川を上っていく様子や藻を食べる姿が観察できたのはとても貴重な体験になりました。

飼育展示第一課　星野　昂大

Aquarium Topics 02

一宮地域文化広場での講演



プラネタリウム館での講演の様子。
海の生き物と星空という面白い組み合わせ。

7月19日、一宮地域文化広場のプラネタリウム館で「プラネタリウムDE水族館」が開催され、「今日から君もイルカ博士」と題して講演を行いました。

当日は大人94名、子ども100名、乳児2名の計196名が参加し、会場は満員となりました。

講演の前半では、バンドウイルカの赤ちゃんの特徴や、名古屋港にやってくるスナメリ、シャチの生態などについて紹介しました。その後、一宮地域文化広場の職員による「星空観察」が行われ、夏の夜空で見ることのできる星座について解説がありました。

講演の後半では、前半の講演内容を踏まえたクイズ大会を実施しました。少々マニアックな難問もありましたが、元気いっぱいに手を挙げる子どもたちの姿がとても印象的で、会場は大いに盛り上がりました。

水族館の生き物と星空という異なるテーマを一度に楽しめるこの企画が、生き物や自然への興味をさらに広げるきっかけになれば嬉しく思います。

飼育展示第二課　日比野　真大

Aquarium Topics 03

名古屋港水族館生まれのザラビクニン、ゆっくり成長中！



生後半年を迎えたザラビクニン。全長４㎝程。水面付近に並ぶ姿がかわいらしい。

2025年11月28日、名古屋港水族館で初めてザラビクニンが誕生しました。新潟市水族館マリンピア日本海から譲渡された個体が産卵し、その卵からふ化した個体です。大きさは全長1～2㎝程度で、尾をくるっと丸めて水槽の壁にくっつき、動きません。餌としてアルテミア（動物プランクトンの一種）を与えてみましたが、まったく反応がありません。食べていることが分かったのは生後3週間を過ぎた頃。ゴマ粒大の排泄物を確認し、ようやく一安心できました。その後、徐々に泳ぐ姿が見られるようになり、ピンセットから餌を食べるようになりました。

生後半年が経過した今年6月、深海コーナーで展示デビューを果たしました。9月現在、全長7㎝を超えるまでに成長していますが、いまだ壁に張り付いてじっとしていることがほとんどです。成魚のように泳いで過ごすようになるのはいつなのでしょう。全長約35㎝の成魚になるまでにどのくらいかかるのでしょう。楽しみに成長を見守りたいと思います。

飼育展示第一課　伊藤　友香

Aquarium Topics 04

新潟市水族館より魚類の搬入を行いました



トラックの水槽へ収容した魚たちの様子と
サンゴ礁大水槽への搬入の様子

新潟市水族館マリンピア日本海で水槽の改修工事を実施するため、飼育展示している魚類の一部を名古屋港水族館で譲り受けました。

各地の水族館では、展示する生物の交換などが行われており、今回は当館を含む３カ所へ魚類を輸送することになりました。赤道の海を担当する飼育員２名が、水槽を積んだトラックで魚類を輸送しました。輸送当日は新潟市水族館および輸送のために来た他館のスタッフ総出で搬出作業を行い、約２時間かけて60匹の魚を無事にトラックの水槽へ収容しました。

新潟から名古屋港水族館までは約８時間の道のりです。途中サービスエリアなどで魚の状態を確認し、酸素やエアーの量を調整しながら輸送しました。到着後は魚を大型のタンクへ移し、タンクごとクレーンで吊り上げ、サンゴ礁大水槽へ搬入しました。

今回輸送した魚たちは、現在サンゴ礁大水槽でご覧いただけます。新たに仲間入りした魚たちの姿を、ぜひご覧ください。

飼育展示第一課　岡本　仁

水族館アカデミー

ダーウィンの箱

水族館の活動を学術的な視点で見てみよう

Darwin's Box

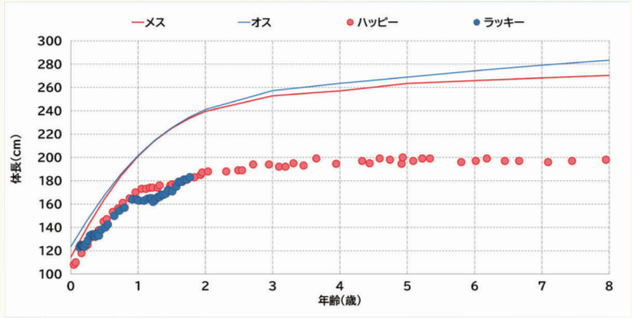
バンドウイルカ「ハッピー」と「ラッキー」の成長

飼育展示第二課　横田　匠他

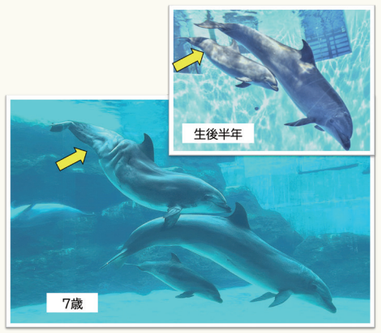
さかなかな101号（※https を半角にしてリンク先に移動してください https://nagoyaaqua.jp/wp/wp-content/uploads/2023/10/vol101_compressed.pdf）で紹介した脊椎弯曲症のバンドウイルカ「ハッピー」（雌）は9月23日で9歳を迎えました。

ハッピーは脊椎弯曲症の他に、成長障害もあり、体長は4歳ごろからほとんど伸びていません（図1：ハッピーとラッキーの成長）。

また、ハッピーは尾びれの使い方が通常ではありません。上下に振るのではなく左右に振って泳ぐため尾びれの縁が壁にぶつかってしまい擦過傷を負うことが多く、傷の治療や処置を継続して行っています。幸い脊椎の弯曲は悪化しておらず、元気に過ごしています（図2）。



【図１】飼育下繁殖個体の成長曲線
参照：2014年海獣技術者研究会宿題調査「バンドウイルカの年齢査定と個体群解析」



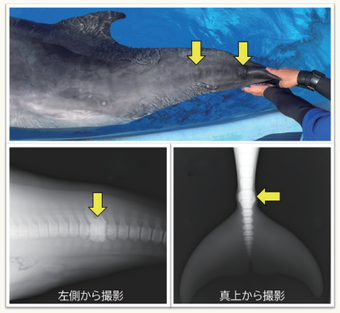
【図2】「ハッピーの脊椎弯曲の経過」
ハッピーの弯曲箇所を矢印で示した。
7歳時の写真にはラッキーも写っている。

そんなハッピーに弟「ラッキー」ができました。ラッキーは2024年10月2日に誕生し2歳を迎えます。ラッキーも生後1か月の健診で、ハッピー同様に脊椎の異常が確認され、一部に骨折が確認されました（図3）。その後も、外見ではわかりにくいのですがX線検査により脊椎に複数の異常が確認されています。

順調に成長はしていますが、国内の水族館で誕生した飼育下繁殖個体の平均体長と比較するとサイズは小さく、ハッピーと似たような成長をしています（図1）。

今後慎重にラッキーの成長をモニタリングしていく必要があります。

最近のハッピーは便採取のトレーニングを行っています。採取した便を検査することは健康管理をする上で重要です。弯曲の影響で採取が難しいため、これまでは定期的に陸に上げて便を採取してきました。現在はトレーニングで柔らかいチューブを使用し、負担にならない程度に肛門へのチューブの挿入をゆっくり進めることで、陸に上げずに便を採取する試みを始めています。



【図3】「ラッキーのX線写真」
矢印のところに骨折と骨の異常を確認。
2026年4月28日撮影

ラッキーは体温測定のトレーニングを行っています。1歳頃から少しずつ餌を食べ始めトレーニングが行えるようになってきました。特に小さいうちは体調を崩しやすいため体温を測れることは健康管理をする上でとても大切な項目です。慣れない刺激に戸惑う一面も見られますが、ラッキーのペースに合わせてトレーニングを行っています。

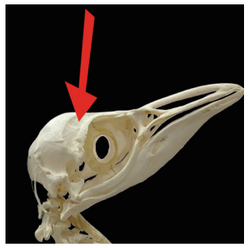
今後も定期的にX線検査や血液検査、身体計測などで健康状態を把握し、2頭が健康に成長できるよう、長期的な視点でサポートを続けていきます。

ぼねぼね探検隊

目の上にあるくぼみの秘密

飼育展示第一課　浅井　堅登

ペンギンをはじめとする海鳥には、海水や魚から取り込んだ余分な塩分を体外へ排出する「塩類腺」という器官があり、頭骨の目の上のくぼみに収まっています。ハトやスズメなど陸上で暮らす鳥には塩類腺が無いためこのくぼみもありません。鳥の骨を観察して目の上にくぼみがあれば海鳥の仲間かも?と推測することができます。



ペンギンの頭骨を見ると
左右両眼の上にくぼみ（矢印先）があります。

ボランティア便り　私の館内おすすめポイント　Volunteer News

南館3階　マングローブ水槽

ボランティア　丸田　幸枝



マングローブ水槽のオヒルギ。5年間でこんなに大きく育ちました。

私が名古屋港水族館を初めて訪れた2021年は、ちょうどオヒルギが植え付けられた年でした。まだ小さかった苗を覚えています。それから訪れるたびに少しずつ大きくなり、今ではすっかり応援したくなる姪っ子のような存在です。その根のまわりにはたくさんの生きものが集まり、まるで小さな町のよう。小さな地球が再現されたマングローブ水槽でじっと目を凝らすと、小さな恥ずかしがり屋の生きものたちが生き生きと暮らしています。そんな命を静かに支えるオヒルギの力強さに、いつも癒やされています。

水族館スクールレポート　School Report

「君もドリトル先生になれるか!」の「獣医のお仕事」を開催しました

飼育展示第三課　神尾　高志

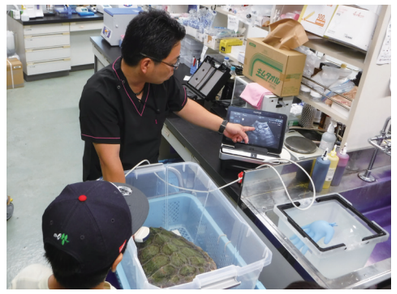


写真1：ウミガメのエコー検査のデモンストレーション



写真2：シャチの健康管理に使う床の上がるプールの紹介

みなさま、こんにちは。名古屋港水族館で鯨類とウミガメの医療を担当している神尾です。今回は、8月26日に開催した水族館体験スクール「君もドリトル先生になれるか!」の「獣医のお仕事」についてご報告します。

このスクールは、水族館の生き物をテーマに、バックヤード見学とレクチャーを通して、生き物に親しみ、水族館をより楽しんでいただくイベントです。「獣医のお仕事」は数年ぶりの開催となり、多くの方にご参加いただけました。

前半は、「水族館のお医者さんはどんな仕事をしているか」「イルカやウミガメの採血はどこからするか」など、水族館ならではの獣医の仕事を紹介しました。後半は、ウミガメを観察しながら診察方法を紹介し、血液検査、エコー、サーモカメラ、レントゲン、内視鏡なども見ていただきました（写真1）。さらに、シャチなど大型動物の健康管理に使う特殊なプールも見学しました（写真2）。

終了後にも多くの質問をいただき、私たちにとっても充実した時間となりました。今後も継続して開催したいと考えています。機会がありましたら、ぜひご参加ください。

アクアリウム・ダイアリー

2026年6月～2026年8月

催し物

7月18日～8月31日 当館飼育係の撮り下ろし
シャチ写真展「飼育係が見た野生の姿2026」

7月18日～8月31日 季節展示『カラッパ　～恥ずかしがり屋のヤシの実』
トラフカラッパ・メガネカラッパ展示

【水族館スクール “君もドリトル先生になれるか!”】

7月22日	シャチ	参加者	21組55名
7月26日	飼育係のお仕事	参加者	18組49名
7月29日	黒潮	参加者	19組50名
8月2日	ペンギン	参加者	18組56名
8月5日	飼育係のお仕事	参加者	19組53名
8月19日	イルカ	参加者	19組54名
8月26日	獣医	参加者	19組51名
8月30日	ウミガメ	参加者	16組48名

【水族館スクール “もっと知りたい!ダーウィン教室”】

6月28日 「知ればもっと好きになる!? ペンギンあれこれ」
参加者6組14名


メガネカラッパ

生物の出来事

6月2日 深海コーナーでザラビクニンふ化個体展示

6月3日 バンドウイルカ「アン」出産※赤ちゃんは出産直後に死亡

6月16-17日 新潟市水族館からタカサゴはじめ魚類搬入（21種60点）

7月10日 北太平洋でのアカウミガメ回遊経路調査（STRETCH）、北太平洋東部にてアカウミガメ30頭を放流完了

8月4日 ベルーガ「ナナ」出産

8月23日 田原市市民団体「あかばね塾」主催「ウミガメ足跡探検隊」にて2歳齢アカウミガメ2個体を放流

来訪者

7月4日 岐阜大学　楠田哲士教授

7月8日 帝京科学大学　野田英樹准教授

7月15日 長崎ペンギン水族館　和田政士館長

7月16日 鶴岡市立加茂水族館　奥泉和也館長

8月4日～5日 金城学院大学　岩崎公弥子教授　他6名

8月14日 台北動物園　呉立信ジェネラルキュレーター　他7名

8月19日 三重大学　船坂徳子准教授

8月21日 八景島シーパラダイス　大津大館長　他2名

8月24日～26日 東京大学大気海洋研究所 阪井紀乃特任研究員

8月31日 富山県立山カルデラ砂防博物館 丹保俊哉学芸員

講演・その他出来事

【講演など】

6月15日～16日 JAZAアニマルウェルフェア評価員研修（参加：神田幸司）

6月16日～17日 JAZA計画推進会議（参加：阿久根雄一郎）

6月17日 JAA第4回トレーニングトーク　オンライン（参加：荒武朝子）

6月18日 JAA理事会（出席：栗田正徳）

6月21日 「KITTE名古屋×名古屋港水族館 おさかなフェス」（講演：尾田愛実）

6月23日 JAZA生物多様性委員会　（出席:栗田正徳）

6月24日 近畿ブロック飼育技術者研究会　オンライン（参加：渡邊陸）

6月24日～25日 中部ブロック獣医師研究会　名古屋港水族館主催

6月25日～26日 中部ブロック飼育技術者研修会（発表：生田元希）

6月28日 「KITTE名古屋×名古屋港水族館　おさかなフェス」（講演：坂岡賢）

7月16日～17日 JAA総会(出席：栗田正徳)

8月5日 2026年度第１回愛知県外来種対策検討会（参加：中嶋清徳）

8月25日 名古屋市動植物実態調査専門家会合
令和8 年度第1 回会議（参加：中嶋清徳）

【講師派遣】

7月10日 名古屋市高年大学鯱城学園

7月19日 一宮地域文化広場

7月29日 熱田神宮緑陰教室

8月12日 メタウォーター下水道科学館なごや

【職場訪問・水族館レクチャー（オンライン含む）】

40件 1,800名

【職場体験】

3件　8名

編集後記

この夏2度あったイルカの出産。そのどちらもを私は記録役で経験しました。いざ生まれるその瞬間を見られるなんとも贅沢でありながら、しかし母と仔の一挙手一投足を記録しなければならない荷の重さもある役です。人とは違う水中での出産は何と言いましょうか、解き放たれる!という感じがします。訳も分からないまま世界に解き放たれているのに一心不乱に水面を目指すその様は何度立ち会っても胸にくるものがあり、思わず祈りが声になって出てきます。

（宮嶋）

表紙写真
【アマモ】学名: *Zostera marina*
アマモ場は海草の一種であるアマモがたくさん生えている海域で、様々な生き物のすみかや隠れ場所となっています。季節によって見られる生き物も変わるため、どんな生き物に出会えるかわくわくしながら採集に出かけています。

ニュースレター さかなかな Vol.131 2026年 秋
発 行／公益財団法人 名古屋みなと振興財団　名古屋港水族館
〒455-0033 名古屋市港区港町1番3号　TEL.052-654-7080
URL https://nagoyaaqua.jp
本誌の掲載記事、写真等の無断複写・複製転載を禁じます。

WEBサイト
https://nagoyaaqua.jp
（なお、一部の機種でご覧いただけない場合があります）